**パラグアイ内政・外交報告（１２月分）**

**政治情勢**

**２０１６年１月作成**

内政では，１８日，国家緊急事態庁が１１月中旬からの断続的な豪雨による洪水発生を受け，大統領令に基づく緊急事態宣言をアスンシオン市及び全国７県に発出した。洪水により，アスンシオン市内だけで約１万２０００世帯（約６万５０００人）が避難しているとされている。また，１９日，アスンシオン市のマリオ・フェレイロ新市長が就任し，優先課題として，①洪水被害対応，②道路舗装の改善，③市役所の各種手続きの簡素化を掲げた。

外交では，２１日，メルコスール第４９回首脳会合がルケ市の南米サッカー連盟コンベンションセンターにおいて，カルテス大統領，バチェレ・チリ大統領，バスケス・ウルグアイ大統領，モラレス・ボリビア大統領，マクリ・アルゼンチン大統領，ルセーフ・ブラジル大統領等の出席のもと開催された。各国首脳は，公式声明のなかで，メルコスール諸国の統合をより深化させることで一致するとともに，税関統合の確立，域内貿易の簡易化，不均衡の削減，並びに生産構造の統合を特に前進させる必要がある旨強調した。

**１　内政**

**（１）ナポウト南米サッカー協会会長の辞任**

**●**３日，国際サッカー連盟（ＦＩＦＡ）汚職事件で米国司法省に起訴されていたナポウト南米サッカー協会会長（ＦＩＦＡ副会長を兼務）が，滞在先のスイスにおいて，米国司法省の要請に基づき，スイス当局に逮捕された。

●８日，同会長は，米国への移送に同意するとともに，１０日付で南米サッカー協会会長を辞任した。

**（２）洪水被害**

●１８日，国家緊急事態庁は，１１月中旬からの断続的な豪雨による洪水発生を受け，大統領令に基づく緊急事態宣言を以下の県に発出した。

●アスンシオン市，セントラル県，アマンバイ県，サンペドロ県，ニェンブク県，プレジデンテアジェス県，コンセプシオン県，ミシオネス県

●報道によれば，アスンシオン市内だけで約１万２０００世帯（約６万５０００人）が避難しているとされており，２０１６年上半期に向け，勢いの強い降雨の発生回数は低下するものの，降雨自体は続く可能性があり，このまま水位が下がらず，２０１６年下半期（雨期）を迎える可能性について，当局は警戒感を強めている。

**（３）全国２５０市長の就任**

●１９日，１１月に行われた全国市長選挙で当選した全国２５０市の市長が就任した。アスンシオン市においては，与党コロラド党から出馬したアルナルド・サマニエゴ前アスンシオン市長を抑えて当選したマリオ・フェレイロ氏（野党二月革命党，元ニュースキャスター）が新市長に就任した。アスンシオン市において，与党コロラド党以外の市長が就任するのは１９年振りのこと。同市長は就任式において，当面の優先課題として，①洪水被害対策，②道路舗装の改善，③市役所の各種手続きの簡素化を掲げた。

**（４）アブド・ベニテス上院議長の２０１８年大統領選挙出馬の可能性**

●２８日，２０１８年大統領選挙への出馬が噂される与党コロラド党のマリオ・アブド・ベニテス上院議長は，出馬の可能性に関する記者団からの質問に対し，自身が立候補する可能性を否定も肯定もしない旨述べた。また，自身が所属する派閥においては，カスティグリオーニ上院議員（元副大統領）なども立候補に関心を示している旨述べた。

**２　外交**

**（１）リリアン・ティントリ女史のカルテス大統領表敬**

●２日，ベネズエラにおいて政治囚として収監中のロペス大衆意志党党首の妻であるリリアン・ティントリ女史がカルテス大統領を表敬し，ベネズエラにおける人権状況の深刻さを説明した。同女史は，表敬後，記者団に対し，カルテス大統領から，活動を続けるようにとの激励を受けた旨述べた。

**（２）カルテス大統領のアルゼンチン大統領就任式参列**

●１０日，カルテス大統領はマクリ・アルゼンチン大統領の就任式参列し，マクリ大統領への挨拶を行うとともに，パラグアイ政府及びパラグアイ国民からの祝意を伝達した。なお,今次訪問には，ロイサガ外相等が同行した。

●また，同日カルテス大統領はマクリ大統領との首脳会談を行い，人権などの価値観の共有及び両国の協働に向けた意見交換を行った。カルテス大統領は，会談後，記者団に対し，「両国間の懸案事項は，次世代に残すべきではなく，我々が解決すべきである。マクリ大統領は協働する意志を示した。」旨述べるとともに，また，ヤシレタダムを巡る問題については，「前政権との間で問題解決が進まなかったことは事実である。マクリ大統領は，ヤシレタ条約の再交渉及び河川水路の活用の促進に向けた意志を有している。」旨述べた。

**（３）第４９回メルコスール首脳会合の開催**

**●**２１日，メルコスール第４９回首脳会合が南米サッカー連盟コンベンションセンターにおいて，カルテス大統領，バチェレ・チリ大統領，バスケス・ウルグアイ大統領，モラレス・ボリビア大統領，マクリ・アルゼンチン大統領，ルセーフ・ブラジル大統領及びモゼス・ガイアナ首相の出席のもと開催された。なお，マドゥーロ・ベネズエラ大統領は国内事情を理由に首脳会合に不参加であった（代わりにロドリゲス外相が出席）。

●同首脳会合では主にＥＵとのＦＴＡ交渉を前進させること，また，ペルー，メキシコ，コロンビア及びチリを含んだ新興経済ブロックである太平洋同盟との交渉を深めることについて議論された。

●首脳会合に出席した各大統領は，メルコスール域内の“移動の自由”を実現するために共に取り組むこと，また，内陸開発途上国の市場アクセスを容易にするために支援することを再確認し，首脳会合の共同声明文に盛り込まれた。

●同会合において，カルテス大統領は，「アスンシオン条約が締結されて約２５年が経過したが，流通の自由化はいまだ達成されておらず，“移動の自由”の保証及び関税・非関税障壁の撤廃を必要としている。」旨述べるとともに，メルコスール構造的格差是正基金（ＦＯＣＥＭ）の重要性（構造的な統一及びメルコスールの国々の生産統合を促進させ，各国間の不均衡を是正するために重要な道具である。）を強調した。

●なお，同会合の終盤に共同声明が発表され，各国大統領は，民主主義体制，基本的な自由及び人権の尊重に重点を置いた公式声明のなかで，メルコスール諸国の統合をより深化させることで一致するとともに，税関統合の確立，域内貿易の簡易化，不均衡の削減並びに生産構造の統合を特に前進させる必要がある旨強調した。

**３　要人往来**

**（１）来訪**

●２１日，メルコスール加盟各国首脳，外相，経済担当大臣等（第４９回メルコスール首脳会合等出席）

**（２）往訪**

●１１月２９日～１２月３日，デ・バルガス内務相，コロンビア訪問（防衛関連エキスポ参加）

●２日～７日，ソサ労働雇用社会保障相，メキシコ訪問（OAS労働大臣会合出席）

●９日～１０日，カルテス大統領他，アルゼンチン訪問（マクリ大統領就任式参列）

●１６日～１９日，バイアルディ女性相，アルゼンチン訪問（アンデス開発公社関連会合出席）

●１６日～１７日，マルティネス国防相，ウルグアイ訪問（UNASUR国防相会合出席）